

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度第3回宍粟市地域公共交通会議	
開催日時	令和7年12月22日（月）10時30分～11時35分	
開催場所	宍粟市役所 4階402・403会議室	
議長（委員長・会長）氏 名	富田副市長	
委員氏 名	（出席者） 別紙のとおり	（欠席者） 別紙のとおり
事務局氏 名	市民生活部：森本部長・朱山次長、まちづくり推進課：中尾次長兼課長・徳久係長・藤多主査、障がい福祉課：小椋課長兼係長、一宮市民局：橋本専門員、波賀市民局：山内副課長兼係長、千種市民局：小河副局長兼課長・山田主査	
傍聴人数	3人	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） ■報告 （1）千種地域におけるデマンド乗合交通の実証運行の取組み状況について ■議題 （1）自家用有償旅客運送（ちくさえとこバス）の登録申請について （2）地域内フィーダー系統補助に係る地域公共交通計画変更認定申請について	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____ 富田 健次 _____ ㊞	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	※開会
会長	※2 あいさつ
会長	それでは3 報告（1）千種地域におけるデマンド乗合交通の実証運行の取組み状況について、事務局より説明をお願いします。
事務局（千種）	<p>※報告（1）千種地域におけるデマンド乗合交通の実証運行の取組み状況について説明</p> <p>11 月末までの利用実績及びアンケート調査の結果を報告。また、アンケート結果を踏まえた、ちくさえとこバスの今後の方向性について報告。</p>
会長	地元千種の方から何か意見等がありますか。
委員	アンケートがよくまとめられていると思う。資料P17 の1.「しかしながらまだ真に必要とされる多数の方がご存じでなく」というこの真に必要とされる方のもう少し具体的な例をお願いしたい。
事務局（千種）	ええとこバスのことや利用方法を知る方も増えてきているが、実際の利用に繋がっていない方がまだいると思う。そういう部分で、例えば自治会の隣保長に各隣保の方に対して声掛けしていただく、あるいは子どもがいる方で、仕事をしながらも無理をして子どもを送迎するようなケースもあると思うが、そういう方にサービスが届くことが望ましいという意見が運営会議の中であった。
会長	千種からもうひと方、意見等がありますか。
委員	今朝もええとこバスを利用したが、その際、鷹巣から体の不自由なおばあさんが1 人乗っておられて、それを見ると、やっぱりこの事業はやってよかったと思った。これからも高齢の方や体の不自由な方、免許のない方、大人子どもに限らず皆が気軽に利用できるようもっともっと整備していただけたらと思う。
会長	事務局からこの2 か月間の実証運行について感想をお願いします。

事務局（千種）	<p>AI システム導入の効果として、なかなかスマホを使うことが難しい高齢者の方がいる中で、一部の方はこれを機会にスマホで予約してみようとされたり、あるいは家族の方がスマホで登録されて利用の変更ができたということがある。それから、ちくさええとこ協議会が運行を委託する先の社会福祉法人がとても地域貢献意欲が高いが、このシステムにより、そちらの業務負担の軽減にも繋がっており、ええとこ協議会の方は地域の方々へのPR活動に注力できるという協力関係ができて、事業の継続性の面で良いモデルができています。</p> <p>また、今後の方向性として整理されている内容について、ソフト事業的なこともええとこ協議会で展開していただけたら、更なる利用者の獲得に繋がっていくのではと期待している。</p>
会長	三方繁盛つれてってカー運営委員会としてはいかがでしょうか。
委員	つれてってカーの利用状況は、月に延べ10件程度で推移しているが、ええとこバスは非常に多くの方に利用されていて、値打ちがあると思う。使い勝手が良いのだと思うが、つれてってカーも参考にしながら、利用者数向上に努めていきたい。それから、運転士はどのように確保されているのかお聞きしたい。
事務局（千種）	<p>主体は地域運営組織ちくさええとこ協議会で、社会福祉法人のちくさの郷という老人ホームに運行を委託する形式。運行の進捗や課題解決については、市民局も一緒に入って運営会議で意見交換しながら進めている。ドライバーは、ちくさの郷の雇用関係にある方1名がほぼ専属でしているが、予約が多く入った場合は、ちくさの郷の他のスタッフが応援にまわる態勢。あとはAIシステムによって、例えば集計や、今後発生する料金収受等はリアルタイムでデータ取得できて、事務負担の軽減に繋がると思う。社会福祉法人と相談しながら、この仕組みを取り入れた。</p>
会長	他に専門家として意見はありますか。
委員	<p>好意的に受入れられたようで良かったと思う。料金についてアンケートを取ると、当然安めを希望される。コストとの兼ね合いやどのような収支率をめざすのかによるが、200円は割と安い方だと思うので、今では300円ぐらいが普通で、場合によってはもっと高いところもある中、利用を増やす観点だと思うが、それで良いのかなとは思っている。また、コストの話で、老人ホームに委託されていて、もしもお客さんがいない場合にも人件費が発</p>

	<p>生してしまうという仕組みになっているようであれば、そういった点も見直した方が良いと感じた。</p>
事務局（千種）	<p>料金について、まず一つ、200 円か 300 円かについては運営会議にて議論はあり、ニーズ調査での価格の受容の範囲を考慮しての結果になる。もう一つ、できるだけ収益を上げたいが、園小中高応援宣言として子どもたちに特に冬休みや夏休みに乗ってもらいやすい価格にして、乗車率を国の補助金の基準の 2.0 以上が平均的に到達できることを目標としながら、利用促進もしていければと考えている。</p> <p>それと人件費については、ちくさの郷との協議でバスに係る業務の部分だけがバス事業の人件費になるようにしており、通常予約が入ってない時間帯は社福での業務に関わっていただくことで、線引きしているので、このバス事業で予約がないときには人件費がかからない仕組みとしている。</p>
会長	<p>ええとこバスの今後の状況について、この会議での報告により引き続き確認していきたい。</p> <p>続いて 4 議事（1）自家用有償旅客運送（ちくさえとこバス）の登録申請について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局（千種）	<p>※議事（1）自家用有償旅客運送（ちくさえとこバス）の登録申請について説明</p>
会長	<p>兵庫陸運部から何か意見等がありますか。</p>
委員	<p>手続きとして、実施するまでの一月ぐらいを目安として申請書類の審査期間を設けている。既に事前にある程度確認しているが、一月ぐらい前までに提出をお願いしたい。また、先ほどの実証実験のアンケート結果に、運行曜日がやや不満という意見があったので、土日でもイベント限定の運行を行うような取組みも考えられているが、そのように P R して認知度を上げながら、今後の利用に繋げていただきたい。また、スマホの利用率について、高齢の方はなかなか難しいという話もあったが、今難しくても地域の方と連携して登録に繋げてもらうことが重要だと思う。今後を考えると、今の 60 代はスマホも普通に使っているので、こういったシステムを利用しつつ、経費のことも考えながら良い形で進めていただければと思う。</p>
会長	<p>運行日について、土日祝は運休としているが、イベント時の運行は臨機応変にできるのでしょうか。</p>

事務局（千種）	先進地視察の際に有償でやるのはやはり法的に難しいと聞いたので、あくまでも無償で実施する。また、ええとこ協議会が運行主体であるので、協議会が実施するイベントや協議会に属する団体が何らかの集客をされるイベント、あるいは自治会等、受皿になる運転士の確保ができる場合に限定して行うという整理がされている。
会長	陸運部としてそのような考え方で良いでしょうか。
委員	無償でされる分については問題ない。
会長	料金について、200 円または 300 円という話もあったが、今回は、大人 200 円、子ども 100 円というのは決め打ちになりますか。
事務局（千種）	運営会議を料金関係だけで 2～3 回開き、最終的にはアンケート結果と利用率も伸ばしたいという意向との兼ね合いで、どうしても 300 円に比べると収入は減るが、利用率を一定上げて国の補助金の目安となる 2.0 以上にしたいという思いも含め、そのような結果となった。
会長	専門家として料金設定は妥当でしょうか。
委員	難しいところで、200 円なら良くて 300 円なら駄目かというところでもないかもしれないが、議論を十分されたのであればやむを得ないかと思う。ただ、先ほどからの説明で、利用率を一定達成したいという話があったが、その目標のようなものが資料に見当たらないので、もしそれが鍵になるのであれば、利用率の目標を公表することも必要かと思う。
会長	その利用率について、説明をお願いします。
事務局（千種）	現状 1 人の乗車で乗合いになっていないケースがあるので、そこは目安として利用率 2.0 が、運営会議でも出てくる。高齢者だけではなく、子どもたちも例えば、兄弟がいれば一緒に出かけたり、長期休暇で利用したり、年末の商店街の売出し等に行ったりするときに、声掛けして乗り合いしてもらえればという思いから 2.0 という数字があったが、持ち帰って協議会できちっとした目標設定についてもまた議論していただきたいと思う。
会長	まず事業の目的が乗合ということで、それを達成するために頑張るということです。

委員	先ほどからの利用率というのは、ほかの地域で乗合率と言われているもの のことか。
事務局（千種）	いわゆる 1 便当たり 2 人以上という乗合率のことになる。
会長	他に意見等ありますか。なければ、本案件は承認でよいでしょうか。
委員	※異議なし
会長	続いて議事（2）地域内フィーダー系統補助に係る地域公共交通計画変更 認定申請について、事務局より説明をお願いします。
事務局	※議事（2）地域内フィーダー系統補助に係る地域公共交通計画変更認定 申請について説明
会長	陸運部より意見はありますか。
委員	前回の会議で同じようにフィーダーの変更申請をされたが、前回は路線廃 止したことに対してそれまで補助を受けていた路線を外す手続き、今回は、 新たにこの自家用有償旅客運送をフィーダー補助に加えるという手続き で、少し時期がずれていたもので、2 回に分けて協議を行うこととなった。 補助の条件について、計画運行回数に比べ 30%の実績がないと補助対象外 になるため、気をつけていただきたい。また、路線定期運行にある 1 回当 たり 2 人以上の条件は区域運行にはないが、ある程度、目標は地域の方で 考えて定めていただいた上で、これから運行していただければと思う。
会長	P42 計画別紙の事業の目標について、他の（1）～（6）の系統は 1 便当 たり何人以上の利用者数という表記だが、ええとこバスは、年間利用者数 640 人という表記にしているのはどのような理由ですか。
事務局	ええとこバスについても他の系統と同じく 1 便当たり 2 人以上としても良 かったが、先ほど説明があったように、区域運行の場合、計画運行回数に 比べて実績運行回数が 30%以上という基準が目安となるため、実証運行の 実績値よりは少なめに見積もっているが、年間利用者数を目標値とした方 が分かりやすいかと思いこの表記としている。また、自家用有償旅客運送 の登録は 2 月の予定のため、本来は今年の 10 月から来年の 9 月末の期間の ところを 2 月 1 日から 9 月 30 日までとしている。

会長	他に意見等ありますか。なければ、本案件は承認でよいでしょうか。
委員	※異議なし
事務局	続いて、5 その他（1）令和8年4月1日以降のダイヤ改正について、ウイング神姫より説明をお願いします。
ウイング神姫	<p>※5 その他（1）令和8年4月1日以降のダイヤ改正についてウイング神姫より説明</p> <p>記載内容について、すべて検討中のものであるため、来年1月29日の会議で正式に確定したものをお伝えさせていただく。</p>
事務局	何か意見等あればお伺いしたい。
委員	ダイヤ改正は、年に1回4月にされるものか。
ウイング神姫	そうとは限らないが、頻繁に変わると混乱を招くため、基本的に4月1日とさせていただいている。
委員	<p>というのも中学校の部活動の地域移行のことでまだ何も決まった状態ではないが、例えば土日に1か所に集まって練習したり、もしかすると平日も毎日どこかに集まったりする場合に、ちょうど時間の合う便があれば問題ないが、現状、特に土日は、良い時間帯のバスがないため、今後、何かしらの方向性が決まったときに要望を出せば、すぐに対応してもらえるかどうかをお聞きしたい。</p>
ウイング神姫	車両や運転士に限りはあるが、可能な限りは対応させていただくので、また要望いただければと思う。
事務局	部活動の地域展開について、市では教育委員会主体で委員会を立ち上げており、令和10年10月の地域展開実施を目標に検討している。事務局としても要望やニーズをしっかりと把握し、こちらの会議で協議させていただきたい。他に意見等ありますか。
会長	前回の会議で話のあった、土日祝の山崎7:30発皆木行きをエーガイヤちくさまで延伸するという件の実現性はいかがでしょうか。

ウイング神姫	実現可能な方向で検討している。
事務局	<p>具体的には次回 1 月の会議で報告があるとのことなので、事前に意見等あれば事務局へ連絡いただきたい。</p> <p>また、前回の会議で、市内高校生を対象としたダイヤの見直しと乗継券の見直しについて意見をいただいた。まず、市内高校生を対象にしたダイヤの見直しは、会議後、ウイング神姫からもう少し具体的なニーズの確認が必要との意見をいただいたため、事務局で千種高校と連絡調整を図り、具体的なデータの収集と整理を行っている。その結果を踏まえ、ウイング神姫と調整し、また 1 月に提案させていただけたらと思う。</p> <p>また、乗継券の見直しについて、課題として、乗継券利用の本来のルールが守られていないケースがあることを改めて認識したのと、もう 1 点、乗継券制度の乗務員への負担について、具体的にどのようなものがあるのか確認しているところである。ただ一方で現状として、月平均 450 人、昨年 1 年間で約 5,500 人の利用があったことも確認している。</p> <p>乗継券制度は、市民の生活を支える路線バスの運賃制度として、市が取り組んでいる施策のため、まずは市として課題を整理し、見直しに当たっては利用者の皆様への事前の周知も考えながら、手続きとしてはこの会議で意見を伺い、丁寧な協議のうえ、承認いただく必要があると考えている。今回は、この課題整理の途中のため、現状の報告というところで理解いただければと思う。</p>
副会長	※閉会

発言者の表記は、「〇〇委員」、「事務局」とする。